

## 令和8年2月定例会 一般質問（概要）

令和8年3月9日5番

中谷 恭典 議員



（中谷 恭典 議員）

大阪維新の会大阪府議会議員団の 中谷 恭典 です。

議長より発言許可をいただきましたので、通告に従い、順次質問させていただきます。

### 1 消防団員の確保について

知事、スクリーンを見ていただいて、3月の府政だよりの2ページ目、後ほど、スクリーンに出てきます。

まずは、消防団員の確保について、お伺いします。

消防団は、災害時に最も住民に身近であり、また最も住民から頼りにされる存在であるが、人口減少や高齢化などの社会状況の変化に伴い、全国はもとより府内の消防団員数は年々減少しております。とりわけ20代、30代の団員数は少ない状況にあるときいております。

消防団を持続的に維持するためには、地域の若い方に消防団の存在を知って、興味を持っていただくことや、消防団員の処遇改善による入団促進が必要ではないかと思っています。

そのような中、今年の1月から大阪府において、「おおきに大阪消防団応援の店」事業が開始されたとお聞きしました。事業内容としては、消防団員が、スマートフォンなどで利用者証を協力店舗に提示すると割引やポイント付与などの特典が受けられるというものであり、団員のメリットのみならず、協力店舗においても社会貢献になる、とてもよい取組であると思っています。



消防団員の確保は市町村が主体となって、積極的に取り組むべきであります。府としても市町村と連携し、消防団員の確保に向けて取組を進めていただきたいと思います。

そこで改めて、消防団員の確保に向け、府としてこれまでどのような取組を進めてきたのか、また今回「おおきに大阪消防団応援の店」に新たに取組んだ狙いはどこにあるのか、危機管理監にお伺いいたします。

### 【危機管理監】

消防団は、大規模災害時において地域防災力の中核を担う役割が期待されていることから、消防団員の確保は重要な課題と認識しており、これまで広報活動をはじめとした入団促進に取り組んできたところ。

具体的には、映画会社とタイアップし、「街のヒーロー消防団員募集!」と題した広報ポスターの制作や市町村と連携しながら各種防災イベントでのチラシ配布など、消防団の認知度向上に努めてきた。

また、今年度はこれまでの取組に加え、消防団に対し特に若者が興味を持ってもらえるように、実際に消防防災活動を実施している若者から、配信ツールやコンテンツの構成などに関する意見も聞き、消防団のPRにかかるショート動画を作成し、ソーシャルメディアでの配信を開始した。

議員お示しの「おおきに大阪消防団応援の店」については、今年1月から事業を開始しており、消防団員の処遇向上の他、日頃から地域のために活躍し

ている消防団員が地域から応援されていると感じることで、やりがいをもって活動していただけたと考え、また入団勧誘時のPRにも役立つことから実施しているもの。

事業の実施にあたっては、消防団員に対する応援の輪を府内全体に広げられるよう、府においては、複数の市町村に展開する大型店舗やチェーンストア、参加市町村においては、地域の店舗等に対しそれぞれ参加を呼びかけるなど、市町村と連携を図りながら進めているところです。

引き続き、消防団員の確保に向けて、市町村や関係団体とも連携し、認知度向上や入団促進を図れるよう、しっかりと取組んでまいります。

(中谷 恭典 議員)

危機管理監より、消防団員の確保に向けて、市町村等と連携を図りながら取り組んでいくとの答弁をいただきましたが、私の地元の柏原市において、関西福祉科学大学附属高校にも、大学生とともに組織する消防防災支援ボランティア団体が設立しております。その名前は、セーバーズという団体です。この学生さんを交えた中で、各種講習の開催や学内における防災活動に必要となる物品の貸与をはじめ、柏原市消防団の訓練に参加していただくなど、大学と連携した取組を行っています。今、セーバーズの団員は40名ほどおられます。卒業時には、柏原市長より、在席証明書と感謝状を付与され、学校側からは、単位の修得にプラスとなるよう働きかけを行うという答えも出ております。

こうした取組が、若者に消防団の存在を知ってもらうきっかけとなり、将来的に地元の消防団への加入につながっていくと考えています。

ぜひとも、他の市町村においても、若者が消防団を知り、入団するきっかけとなる取組が実施されるよう、また、先ほど答弁いただいた「おおきに大阪消防団応援の店」についても、まだ府内全ての市町村が参加していないと聞いておりますので、府内全市町村の参加を呼びかけるなど、府としてしっかり取り組んでいただきたいと思います。

## 2 保護司の確保について

次に、大阪府における保護司確保の取組について、お伺いします。

我が国の更生保護の基本法である更生保護法は、法の目的として、「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が善良な社会の一員として自立し、改善更生することを助ける」と規定しています。

ただ、罪を犯した者の更生というのは非常に難しいものがあります。

パネルをご覧ください。3月7日より「ミックスモダン」という映画が上映され

ております。この映画は、少年院出身者の更生と雇用をめぐる課題を正面から描いています。

主人公は更生を求められながらも、雇用や人間関係の壁に阻まれ、立ち直りの機会を失いかねない現実のなか、お好み焼き屋を営む夫婦と出会い、「働くこと」「信頼されること」の意味に向き合っていきます。この映画の題材の核ともいえる大阪のお好み焼き店のスタッフや関係者、さらには、現役の保護司などにも取材を重ねるとともに、監督の藤原稔三（ふじわらとしぞう）さんも、自ら保護司になって脚本を書き上げたそうです。

犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないように、立ち直りを地域で支えているのが民間のボランティアである保護司です。現在、保護司の数は全国的にも減少傾向にあるとともに、高齢化が進んでおります。現に私の地元である藤井寺市、柏原市でも減少しており、新たな保護司候補の方に依頼をしたとしても断られるケースも多いと聞いております。

法務省が行ったアンケート調査によると、保護司会が保護司候補者と思われる方に保護司になってもらえるよう依頼して断られた主な理由の1つとして、「自宅に訪ねて来るのが負担である」ことが挙げられております。2024年には大津市で保護司が自宅面接をしている際に対象者に殺害されるという悲惨な事件も起きています。

国からは、庁舎やコミュニティセンターなどの公共施設を保護司が保護観察対象者等と面接する場所として提供依頼もされていると聞いております。

保護司の安定的な確保については、所管している法務省が行うものであることは重々承知しておりますが、府としても、保護司の確保に資する取組が出来るのではないかと考えますが、現在の大阪府の取組について危機管理監にお伺いいたします。

#### 【危機管理監】

保護司は、民間人としての柔軟性と地域の実情に通じているという特性を生かし、保護観察官と協働して保護観察にあたるほか、犯罪や非行をした人が刑事施設や少年院から地域社会に戻った際の社会復帰をサポートするなど、安全で安心な地域社会のために必要不可欠な存在と認識。

このため、府としても保護司の人材確保支援として、法務省と連携し、府ホー



ムページへの掲載やSNSでも広く府民に募集を呼びかけるとともに、府職員に対しても、庁内ウェブページにおいて周知を行っているところ。今後は「犯罪被害者月間」におけるイベント等においても、広く呼びかけていく。

また、議員ご指摘の保護司が保護観察対象者等と面接する際の場所提供については、府としても堺西更生保護サポートセンターの設置にあたり、府有施設である泉北府民センターの一画を提供しており、新たな場所提供についても、市町村に協力依頼を行っているところ。

加えて、保護観察対象者の更生と雇用をめぐる課題に対応するため、指定管理者選定等において保護観察対象者を雇用した事業者を加点評価している他、大阪保護観察所から推薦を受けた対象少年等を非常勤職員として直接雇用する事業も危機管理室において実施している。

今後とも様々な関係機関と連携し、保護司の人材確保や再犯防止に資する取組を実施して行く。

(中谷 恭典 議員)

次に、美馬部長にお伺いする予定でしたが、3番目の質問は、次回の委員会においてでも、質問させていただきます。



### 3 ビヨンドエキスポ 2025 での地域の活性化について

次に、ビヨンドエキスポ 2025 での地域の活性化について、お伺いします。

2月12日に開催された副首都推進本部会議では、万博後の新たな成長戦略「Beyond EXPO 2025」のとりまとめ案が報告されました。戦略は、万博後の持続的な成長・発展と府民の暮らしの向上に向け、大阪が進むべき道を示す指針として策定されるものであり、万博のレガシーを継承したうえで、これまで以上に経済力・都市力・人材力を高めて、世界に伍する副首都・大阪を作り上げていくとしています。

副首都の実現に向けては、府域全体で成長戦略を展開していく必要があります。人口や企業の集積をみれば、東京都では23区の区域に、都の人口の約70%、企業数の約84%が集中しております。これに対し大阪では、市域への集積は人口規模で約32%、府内GDPシェアで約49%、企業数では約48%にとどまっております。企業や人の集積が、大阪市域だけでなく周辺市まで広がっているのが特徴となっております。こうした観点からも、東西二極の一極としての副首都・大阪の実現には、大阪市域を超えた広域エリアでの経済成長を実現していく必要があると思っております。大阪市内の経済活動だけでなく、府域全体の活動も活発化させ、大阪全体として経済成長していくことの重要性が増しております。

府内各地には、世界に誇る歴史・文化資源や豊かな自然と大阪産（もん）などの魅力的な資源が多数存在しています。こうした地域の資源を活かして、地元産業の振興や国内外からの誘客を積極的に促進していくべきだと思います。

そこで、「Beyond EXPO 2025」では、大阪全体の成長・発展をめざして府内各地の地域の資源を最大限活かした施策を充実させていく必要があると考えておりますが、政策企画部長の所見をお伺いいたします。

#### 【政策企画部長】

「Beyond EXPO 2025」は、大阪全体の持続的な成長・発展や府民の暮らしの向上をめざすものであり、経済活動が集積する大阪市内だけでなく、府内各地域の資源やポテンシャルを最大限活かした取組を展開していくことが重要。

今般お示ししたとりまとめ案では、地域における企業立地や創業促進などの経済活性化策とともに、最新技術を活用した第一次産業の高付加価値化など、地域の資源を活かした地域産業の振興に資する取組を掲げている。

また、府内各地域にある魅力的な地域資源のコンテンツ化を図り、その魅力を発信することで、国内外からの誘客や府内周遊を促進するための施策や、地域の特色を活かしたまちづくりやインフラ整備の取組を盛り込んだところ。

施策の方向性については、取組の進捗状況や環境変化などを踏まえ、毎年柔軟に見直しを行っていくこととしており、地域の活性化に資する取組についても、市町村等と連携しながら、更なる充実を図っていく。

（中谷 恭典 議員）

過去の大阪は投資や税収が減少、厳しい財政危機に直面し、長期の低迷が続いていました。

しかしこの間の徹底した行財政改革や成長戦略の実行、万博の開催などにより、近年大阪の経済は堅調に推移するなど、状況は大きく好転しております。

ところで、松井政策企画部長におかれては、今月末をもってご退職とお伺いし

ております。直近では、議会事務局長、危機管理監、政策企画部長といった要職を歴任されるなど幅広い分野で活躍され、大阪を成長する軌道に乗せることに尽力してこられました。

これまでのご経験も踏まえて、今後の府政の未来への期待も含めて、少しお話しただいただければと思います。

#### 【政策企画部長】

ご配慮いただき、お時間頂戴しましたので、一言ごあいさつ申し上げます。

昭和63年の入庁以来、38年間、大阪府庁にお世話になりました。

その間、土木、総務、商工労働、政策企画、副首都、府民文化、議会事務局、危機管理と様々なお仕事に携わらせていただきました。

先ほど、「Beyond EXPO 2025」について、答弁させていただきましたが、2010年度に最初の戦略である、「大阪の成長戦略」を策定、また、2016年度に最初の「副首都ビジョン」の策定、そして今回の「Beyond EXPO 2025」の策定と大阪の成長に関わる3つの戦略に携わりました。特に最後の1年に、「Beyond EXPO 2025」という新たな戦略に携わらせていただいたのも、何かご縁のようなものを感じております。とわ申しましても、骨組みは、前川端部長の時代にしっかり作成頂いておりましたし、成長戦略局を中心に、全庁をあげて、取り組んできた成果だと考えております。ご尽力いただいた全ての職員の皆さんに感謝申し上げます。また、これまで担当してきた業務で印象深かったのは、危機管理監時代の業務でございます。特に性犯罪・性暴力被害者のワンストップセンターのあり方見直しや、特殊詐欺被害防止に向けた条例の改正に力を注ぎ、何とか良い方向性が見出せたと感じております。困難な課題にともに取り組んでいただいた、職員の皆さんにも感謝しております。更には、議会事務局長として、理事者側ではなく、議員の皆さんに近い立場で府議会に関わられたのも良い経験となりました。当時、ご指導いただいた議長、副議長の皆さま、そして慣れない事務局長を支えて頂いた職員の皆さんに感謝申し上げます。この他、これまで様々な形で関わっていただいた全ての職員の皆さんに感謝したいと思います。

今後の府政につきまして、私は、ただただ、愚直にやってきた人間でございます。偉そうなことをいえる立場ではございません。ただ、一つだけ後輩の皆さんに言えるとしたら、それは大阪府庁を必要以上に、好きになるなという事です。変な事を言っているようですが、要は、私達が、一番大事にするべきことは、組織として大阪府庁ではなく、大阪という街そのものであり、そこに住まう人々であるべきと私は思っています。大阪府庁ではなく、大阪を大事にする、当たり前のように思いますが、組織に長くいればいるほど、段々、組織の論理や前例主義に染まってきて、そのあたり前を見失いがちになってしまいます。だから、後輩の皆さんには、大阪という街そのものを愛し、その成長、発展のために、

どうすべきかを常に考えて、お仕事にあたっていただければと思っております。

一人一人の大阪を思う気持ち、それが集まれば、きっと素晴らしい大阪の未来に繋がってくると思います。残された皆さんが明るい大阪の未来を切り開いていただくことを大いに期待しております。

最後になりましたが、これまで真摯にご議論いただき、ご指導いただいた全ての府議会議員の皆さまに改めて、心より感謝申し上げます。また、仕事に関わった経済界、民間企業、団体、マスコミ関係者等の皆さまにも大変お世話になりました。そして、これまでご一緒してきた、府庁の全ての諸先輩、同輩、後輩にこの場をお借りして心より感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。そして、昨年12月に急逝されました、同い年の後藤克己人事委員会事務局長、更には、2020年1月、準備段階の初期に万博協会に派遣され、志半ばで急逝した、私の中学、高校の同級生である柴田直彦君にも心よりの哀悼とお礼を申し上げて、私の退任のご挨拶とさせていただきたいと思います。

天国の柴田、見てるか、万博成功したで。

38年間本当にお世話になりました。

(中谷 恭典 議員)

松井部長、本当にご苦労様でした。

これで私の一般質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

